



カブキ症候群 ことばのはなし

～よりよいコミュニケーションの発達を促すために～

※集団外来開催時の資料を基本にしています。

※改訂を加えていますが情報が古い場合があります。

※情報保護のため、個人利用以外の二次利用は禁止しています。

集団外来開催日：2015年11月17日(第12回カブキ症候群)
最終レビュー日：2025年12月1日



ことばのはなし

～よりよいコミュニケーションの発達を促すために～

保健発達部 言語聴覚士
遠藤俊介





言語聴覚士 (Speech-language-hearing Therapist)

発達に関わる分野

発達の遅れ、ことばの遅れ
読み書きの問題、対人関係の苦手さ

小児失語症
高次脳機能障害

聴覚障害

摂食嚥下
障害

発音や発声に関わる分野

口唇口蓋裂、気管切開
発声障害、構音障害、吃音

お子さんのコミュニケーションや食べること、また、その他お子さんのより良い発達に必要なことについて、評価、助言、指導を行います



コミュニケーションとは

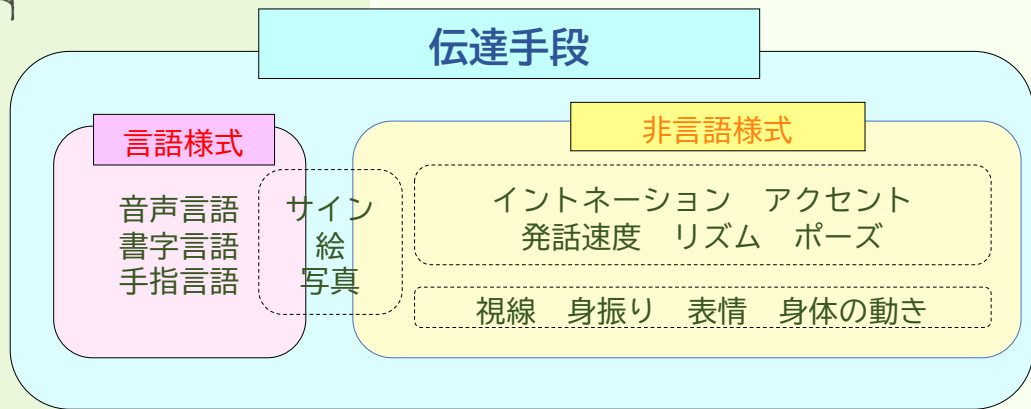
- ✓ コミュニケーションとは、人と人が情報を交換し、共有しあうこと。
- ✓ ①伝達意図 ②伝達内容 ③伝達手段 の3つから成り立つ。

伝えたい!

- | | |
|-------------|---------------------|
| ①伝達意図 | 相手と考えを共有させたいと思う気持ち。 |
| ②伝達内容 | 相手と共有させたい考えや情報。 |
| ③伝達手段
法。 | 相手と考えや情報を共有させるための方 |



「ことば（音声言語）」は 「伝達手段」の1つの様式



コミュニケーションのうち、「ことば」の果たす役割は5～15%



「ことば」がつかえるようになるための3要素

①生理学的発達

→身体づくり、使い方（伝達手段）

②認知的発達

→ものごとの理解力（伝達内容）

③社会的相互交渉の発達

→「伝えたい」という気持ち（伝達意図）



①生理学的発達

身体づくり、使い方（伝達手段）

✓聴覚／聴知覚

- ・聞こえに問題はないか 聞き分けはできているか

✓口腔機能

- ・口周りの動きや形は正常か

✓発声器官

- ・声がしっかり出せるか 呼吸は整っているか

✓視覚／視知覚

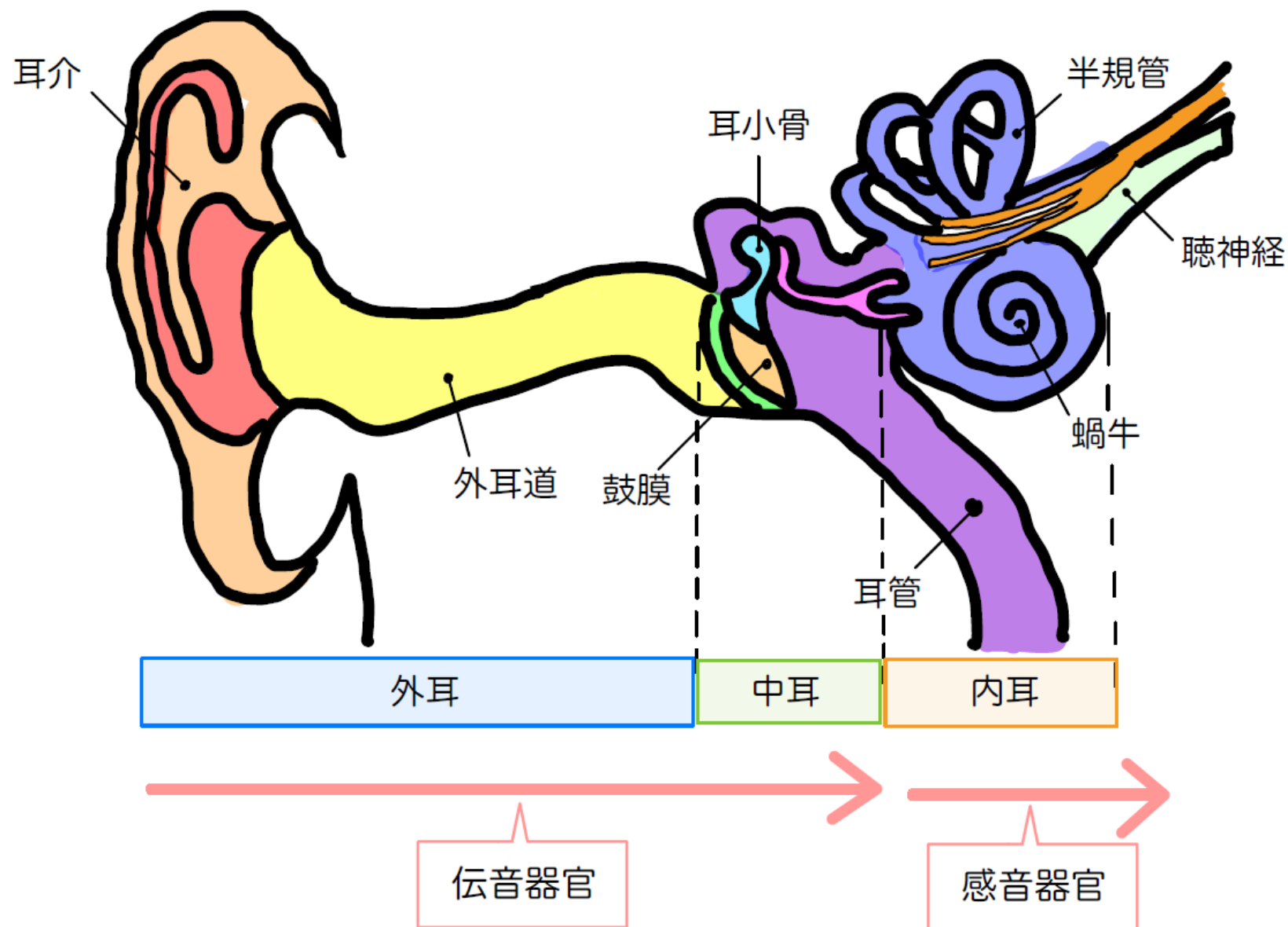
- ・しっかり見えているか 見分けられているか

✓触覚／運動

- ・触覚は正常か 手足の動きはどうか

耳の構造

きこえのしくみ





小さい ↑ 音の大きさ ↓ 大きい

デシベル (dB)

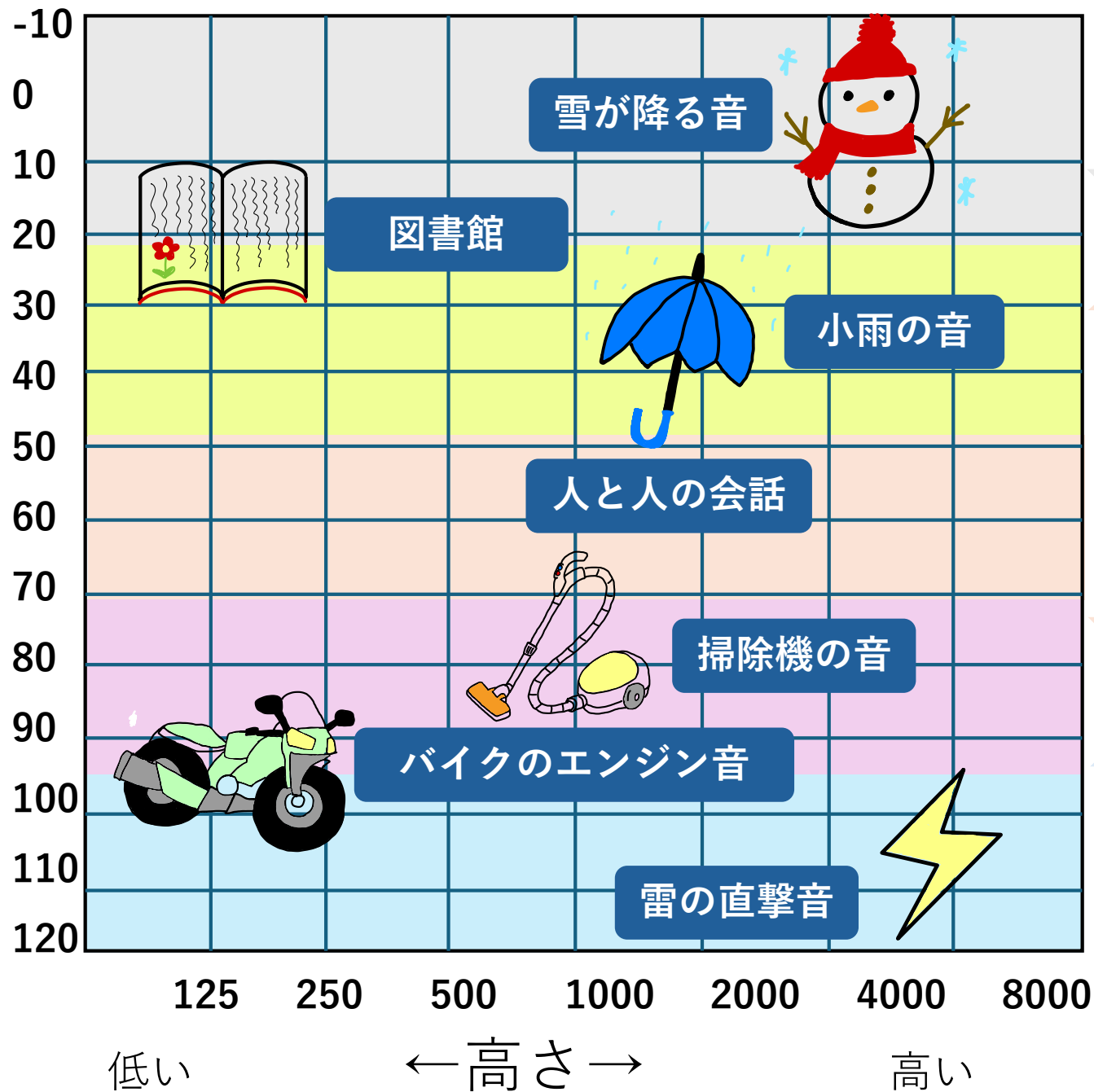
健聴

軽度

中等度

高度

重度



補聴器不要

補聴器適応

補聴器は困難



聴力レベルと不自由さ

正常

30dB未満

軽度難聴

30～50dB未満

小さめの声、多人数での会話、会議が聴き取れない
テレビの音量を上げる

中等度難聴

50～70dB未満

普通の声が聴きづらい

高度難聴

70～90dB未満

大きめの声も聴き取れない
大きな物音はわかる

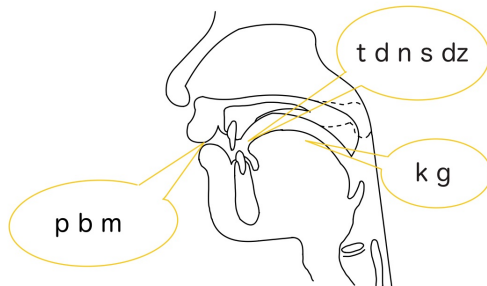
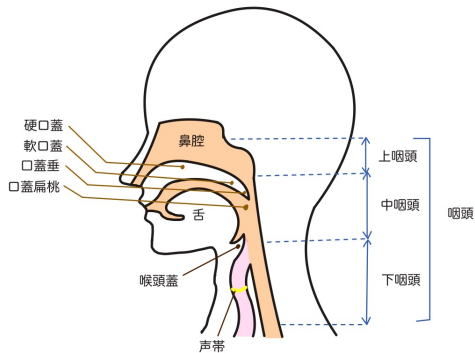
重度難聴

90dB～

ほとんどの音は聴こえない
耳元での大声もわかりにくい



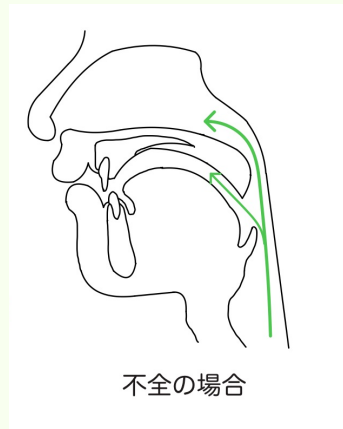
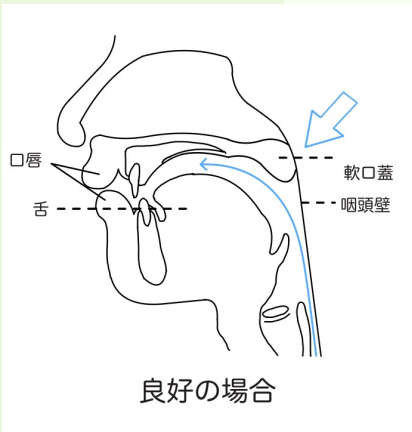
発声発語器官と構音





鼻咽腔閉鎖機能

✓発声している時の鼻咽腔閉鎖機能の状態





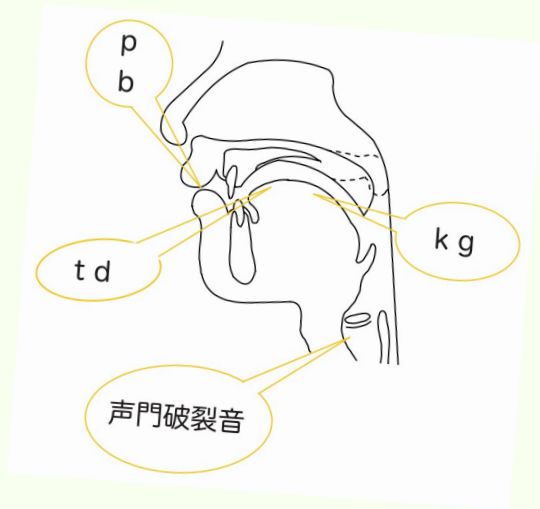
鼻咽腔閉鎖機能が不良な場合にかかる 発音の問題

✓声門破裂音

喉をつめた音

✓開鼻声・鼻音化

声が鼻に抜ける





②認知的発達

ものごとの理解力（伝達内容）

- ✓ものの区別ができるか（りんごとみかんは違うもの）
- ✓ものの使い方がわかるか（りんごはたべるもの）
- ✓**象徴機能** 「あるもの」を「別のあるもの」であらわせるか。
 - 1つ1つのリンゴは実際にはすべて違う。
 - 『食べられる 丸い 赤い（青い場合も！！） 甘酸っぱい ……』
 - これらの特徴を持っているある集合（イメージ）を「リンゴ」ということばであらわせる（ものには名前がある）
- ✓「みたてあそび」「ままごと」ができるか？
 - 「おかあさん」を「人形」であらわす。「りんご」を石であらわす。
- ✓語彙の理解
- ✓文の理解、「おはなし（談話）」の理解



③社会相互交渉の発達

「伝えたい」という気持ち（伝達意図）

- ✓人への志向性、興味。
- ✓視線、指さしの理解、気持ちの共有。
- ✓三項関係の成立。『こども－おとな－もの』の関係。
- ✓意図の理解。何を見ているのか。どの側面を見ているのか。
- ✓「伝えたい」「わかって欲しい」と思う気持ち。



ここまでのまとめ



コミュニケーションの3側面

①伝達意図

②伝達内容

③伝達手段

✓子どもの「ことばの支援」を考えると、

③の「伝達手段」に注目してしまいがち。

✓しかし、実は①「伝達意図」②「伝達内容」の方が
ずっと大切です。

✓ ③だけあっても結局「うまく」使えません。



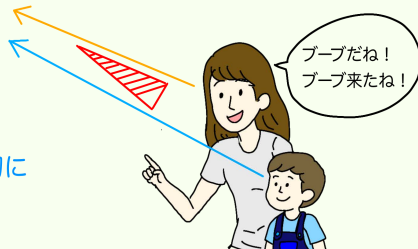
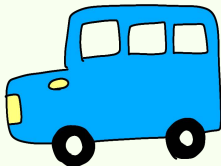
ことばが習得されるのは。。。。

- ✓ 相手の意図や視点を理解できるから
- ✓ 「教えなくても」 ことばは習得される

その基盤は、
相手と「共感する」チカラです。



コミュニケーションの 三角形を つくってくださいね

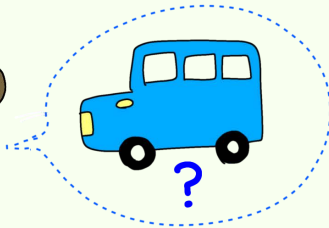
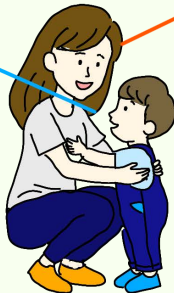
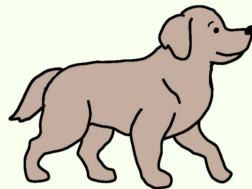
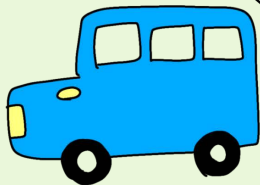


三角形の関係性を大切に

共同注意（三項関係）

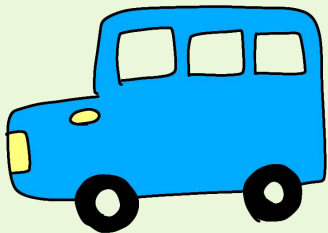


お子さんに見て欲しいこと、よりも・・・

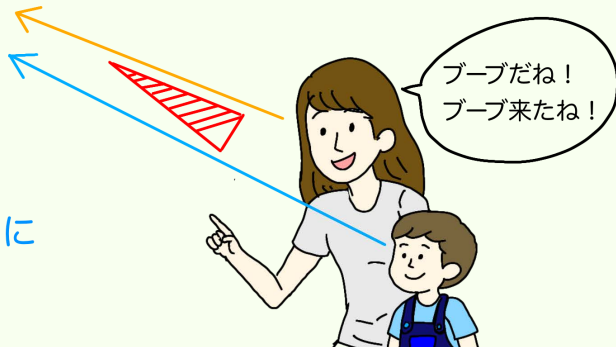




お子さんが見ていること、感じていることを



三角形の関係性を大切に





「伝え合う」ということ

「愛するということは、
お互いに相見合うことではなく、
諸共に同じ方向をみることだ。」
ーサン・テグジュペリ「人間の土地」

お子さんは何を見えていますか？
お父さんお母さんは何を見えていますか？

✓子どもは、大好きなお父さんお母さん、先生方と
「あったね！」「おもしろかったね！」と視点を合わせて
共感することから「ことば」を学んでいきます。

✓これは、日本語でも英語でも、音声言語でも身振り言語でも、すべての「言語」に共通します。

✓必要なのは一緒に対象を「感じ合う」こと。

✓「遅れ」や「凸凹」のあるお子さんにとって、そのためにはちょっとした配慮が必要です。



「ことばの問題」のあるお子さんへの支援

- ✓相手の「意図」をつかむのが苦手
- ✓相手の「ことば」をつかむのが苦手
- ✓「ルール」や「多数派のやり方」をつかみとるのが苦手

努力と根性？

リハビリ？

専門的な訓練？

一生頑張り続けなければ
いけないのでしょうか？



「訓練」をすれば解決するのか？

- ✓ことばやコミュニケーションの苦手さは、脳機能の**特性**に起因しています
- ✓脳機能そのものを改善させるための明らかに有効な手立ては現在はありません
- ✓「訓練」を否定はしませんが、、、



特性 ≠ 障がい

- ✓ 「目が悪い」という特性
- ✓ 「肢体不自由」という特性
- ✓ 「聞こえにくい」という特性



近年の「支援」のあり方

- ✓ 「苦手さ」は助けを借り、自分のできること、得意なことで勝負をする
- ✓ 多数派の「やり方」「あり方」を強要しない
- ✓ 「自分は大丈夫」という自信を持てるように育む
- ✓ 「人と共に生きる」ことが楽しいと思えるように育む

自己肯定感

他者への信頼感



将来の社会的適応のために

- ✓ 「発達障がい」のあるお子さんを追跡調査
 - 社会適応できている人とそうでない人の違いは？
- ✓ 「二次障がい」「併存症状」を作らない
 - 過度な努力の強要による**自信の喪失**
 - 「うまくいかない」ことの連続による**無力感**
 - 「認めてもらえない」ことの繰り返しによる**不信感**



「困った行動」について

- ✓かんしゃくがひどい
- ✓いろいろなことに「こだわる」
- ✓お友達を叩く
- ✓怒られるようなことを「わざと」する
- ✓何度言っても同じことを繰り返す

「こまっちゃうな、、、」でも...



なぜ、そうするんだろう？

✓特性への配慮不足による強い不安や混乱

理解ができない、見通しが持てない
不快な刺激が溢れてる、、、

✓「困らせたい」のではなく「困っている」

強い不安や混乱を感じながらも、
一生懸命生きている

「わがまま」でも
「我慢が足りない」わけでもありません



支援プログラムの目的

なんのための支援？

大人の言うことをきくように！

「普通に」なるように！

問題行動をなくすために！



支援プログラムの目的

なんのための支援？

お子さんが困っていることを減らし
より生き生き過ごせるようにすることで、
より良い発達を促すため。



近年の「支援」のあり方

- ✓ 「苦手さ」は助けを借り、自分のできること、得意なことで勝負をする
- ✓ 多数派の「やり方」「あり方」を強要しない
- ✓ 「自分は大丈夫」という自信を持てるように育む
- ✓ 「人と共に生きる」ことが楽しいと思えるように育む

自己肯定感

他者への信頼感



「怒る」「叱る」と行動変容

- ✓危険なこと、社会的に絶対に許されないことは「怒ってでも」一時的に制止する
- ✓でも、納得できていなければまた別の場面でやってしまう

「行動を変える」ためには、
「良い行動」を
「褒めて増やしていく」ことが必要



お子さんの「自立」のために

「一人でなんでもできる」≠「自立」

- ✓自分の特性を理解して
- ✓人と自分を信頼して
- ✓必要な時には助けを求められること

「普通になる」「みんなと同じ」が
ゴールではありません



何のための「指導」「療育」？

- ✓大人の言うことを聴くようになる？
- ✓「普通」になる？
- ✓一人で何でもできるようになる？

自分でできることは自分でして
でも、困った時には他者を信頼して頼り
誰かと楽しさや嬉しさを共感して生きられる

ことばとコミュニケーションは
そのために活用していくもの



最後に

- ✓誰かと楽しさや嬉しさを共感する
- ✓「ことば」と「コミュニケーション」は
そのためにつかうもの
- ✓お子さんの毎日の生活をとおして生涯
ずっと発達し続ける

保護者

地域

保育園

学校

専門職